

# 国際規格の動向— ISO 6452 改正について—

\*金原英司

## ■概要

ISO 6452, Rubber- or plastics-coated fabrics — Determination of fogging characteristics of trim materials in the interior of automobile は、ISO/TC45(ゴム)/SC4(ホースを除く製品)で 2000 年に制定された ISO 規格で、フォギング試験を規定している。

自動車の内装材に用いられるゴムやプラスチックは、夏場など高温になった車内で内部に含まれる可塑剤や添加剤が揮発し、外気との温度差によりフロントガラス内面に付着し、窓ガラスを曇らせることがある。この現象をフォギングと呼ぶ。

本規格は、試験瓶の中で加熱された試験片から揮発する成分を、試験瓶上部に取り付け裏面を冷却したガラス板又はアルミニウム箔に凝縮させ、ガラス板の鏡面光沢度の変化やアルミニウム箔の質量増加量の測定により、フォギング値(F)や凝縮成分の質量(G)でフォギングを評価する。

今回の改正は、2007 年発行の第 2 版について、当社須賀及び金原がプロジェクトリーダー(PL)として改正を進めたもので、2021 年 5 月に第 3 版が発行された。

## ■改正内容

今回の主な改正内容は、下記の通りである。

### 1. 試験瓶を加熱する方式として、空気加熱方式を追加

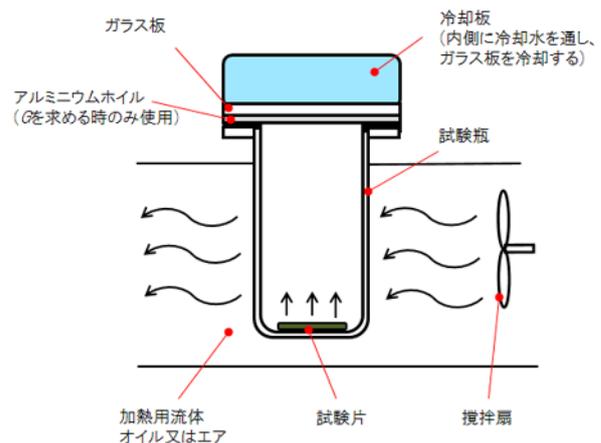
従来、試験瓶を加熱する熱媒体として液体(オイル)を使用したオイル加熱方式のみが規定されていたが、日本では、熱媒体として空気を用いる空気加熱方式が広く使用されている。そのため 2018 年の ISO/TC45 国際会議で、空気加熱方式の試験結果を日本より示し、空気加熱方式追加の改正提案を行った。第 3 版では、オイル加熱方式と空気加熱方式の 2 種類の方式が併記された。

### 2. 試験室間試験プログラム (Interlaboratory Test Program, ITP) による精度データを追加 (Annex A)

改正作業中の 2019 年から 2020 年にかけて、オイル加熱方式又は空気加熱方式の試験機を保有する全 10 機関で、国際的な試験室間試験プログラム(ITP)が実施された(PL: 金原)。DIDP 標準液を用いた試験の結果、空気加熱方式を使用する全機関でオイル加熱方式と同様に規格の規定値内であることが示された。

### 3. オイル加熱方式及び空気加熱方式の試験結果の比較を追加 (Annex B)

オイル加熱方式と空気加熱方式による試験結果を比較した結果が掲載された。試験結果は、当社製フォギングテスター-WF-1 型(オイル加熱方式)及び WF-2 型(空気加熱方式)を使用して得られたもので、試験結果を示す表内に当社装置について記載されている。



フォギングテスター構造図

\*日高・川越工場 開発部プロジェクトD 課長